

19 山田 ロサリオさん Rosario Yamada

起

中南勢

特定非営利活動法人日本ボリビア人協会
(津市) 理事長

事業所

住所：三重県津市大門 7-15 津センターパレス 3 階

URL：http://arbj.strikingly.com

社員数：6 名

業種

国際交流・多文化共生



Profile

- ・日本人商社マンの夫とボリビアで結婚し、出産
- ・家族で日本へ移住。日本語を習得
- ・在日ボリビア人の互助グループを発足
- ・日本語通信教育（スペイン語）を開始

講演・相談可能分野

- 仕事と家庭の両立 育ボス
- 人材育成 障がい者雇用 起業
- NPO 設立 多文化共生
- 地域資源活用 防災
- その他

講演実績

- ・2013 年 「地域日本語教育と住民の社会参加」
(文化庁日本語教育大会)
- ・2016 年 「多文化共生って何？」
(東海「市民サミット」ネットワーク事務局)
- ・2017 年 「多文化共生施策の推進」
(全国市町村国際文化研修所 JIAM)

「私の使命」

「なじめない」在日外国人の困難に対処

『NPO 法人日本ボリビア人協会 (ARBJ)』は、在日ボリビア人の互助会。理事長の山田さんが、他に仕事を持ちながら、彼らの相談・支援活動を行っています。

「日本になじめず、私も最初は毎日泣いていました。日本で働く外国人は、みんな孤独です」。山田さんは来日後、まず奈良県で日本語を習得し、最寄りの教会で外国人（スペイン語圏）の生活相談・通訳・翻訳ボランティアを開始。

1995 年の阪神大震災では、「給料の未払い、病気やケガなど、色んな相談を受けました」。2008 年のリーマンショックでは、多くの在関西ボリビア人が失業。彼らが職を求め東海地方に転居したことに伴い、山田さんも活動の地を三重県へと移しました。

困りごとを反映。使える日本語通信講座

山田さんが来日して一番嬉しかったのは、「日本語が伝わった時」と振り返ります。「ご近所にボリビア料理を振る舞い、喜ばれました」。

そんな経験から、日本語学習の大切さを在日ボリビア人に説きます。しかし、仕事や育児で学校に通えない彼らの事情も理解します。そこで団体を NPO 法人化した 2012 年に、『家で学べる日本語通信講座（スペイン語版）』を実施（文化庁委託事業）。

通信教育事業の大手『ラーンズ』（ベネッセ関連会社）と共同でテキストを制作しました。病院編・市役所編など、日常の「困った」状況別に冊子を分類。「私が特に力を注いだのがコラムです」。相談の多い「面接時のマナー」など、すぐに実践できる情報も盛り込みました。

私流リーダーシップ

編み物教室で、孤独を解消&自立も支援

近年、山田さんは在日ボリビア人労働者と、その家族の高齢化問題にも関心を寄せています。「特に高齢女性は働き口がありません。今から日本語を習得するのも年齢的に難しい」。

そこで目を付けたのが、南米の女性が身につけている技能。「私達はみんな、小学生の頃から編み物を習いました。だから編み物ができるんです」。2017 年には、三重県産業支援センターの助成金を受け、津市内で編み物教室を開始。ボリビアの名産品であるアルパカの毛糸をフェアトレードで購入し、その毛糸で作品を制作します。同時に、孤立した彼女達の“サロン”としての役割も果たします。「商品を販売して、彼女達が自立できることを目指しています」。

楽しく相互理解！文化交流イベントも開催中

在日ボリビア人への生活相談／日本語学習支援／編み物教室と、彼らが日本で自立するための道を山田さんは切り拓きます。あわせて日本人にも理解を呼びかけます。

人々を仲間に巻き込む、楽しい仕掛けがありました。「『EXPO ボリビア』という文化交流イベントを開いています。運営スタッフの中には、私が来日したばかりの頃に日本語を教えてくれた、夜間中学の先生もいますよ」。またアルパカ毛の編み物が、日本人の好みにフィットするよう『東京ニットファッションアカデミー』のデザイン協力も仰ぎました。

「目標は、色々なボランティア活動をしてきた私の母です」。人の縁とアイデアを駆使し、日本人とボリビア人の地域共生を図ります。

(取材時：2018 年 8 月)

こんな講演・相談に対応できます

- 外国人労働者の困りごと事例
- 外国人への日本文化・マナーの講座
- “書く”日本語通信講座（スペイン語版）
- 多文化共生のヒント・アイデア

お問い合わせ先

三重県 ダイバーシティ社会推進課

TEL：059-224-2225

WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEBは
ここから

